

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

製品名：ステンクロス（エアゾール）

供給者の会社名：シーバイエス株式会社

住所：神奈川県横浜市中区山下町22番地 山下町SSKビル／〒231-0023

担当部門：カスタマーテクニカルセンター

電話番号：045-640-2280

FAX番号：045-640-2216

推奨用途：艶出しクリーナー（エアゾールタイプ）

業務用 ステンレス用洗浄・ツヤ出し剤

使用上の制限：推奨用途以外には使用しない

整理番号：04034

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

物理化学的の危険性 エアゾール : 区分1

健康有害性 該当情報なし

環境有害性 該当情報なし

※上記で記載がない危険有害性は、分類できないか区分に該当しない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール

高圧容器：熱すると破裂のおそれ

注意書き

【安全対策】

熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。

裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。

使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

【保管】

日光から遮断し、50°C以上の温度にばく露しないこと。

【廃棄】

内容物／容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

人の健康に対する有害な影響

- ・ 吸入した場合、刺激性は弱い。
- ・ 皮膚に付着した場合、刺激性は弱い。
- ・ 眼に入った場合、刺激性は弱い。
- ・ 飲み込んだ場合、有害性は低い。

環境への影響

- ・ 大量に流出した場合は、水生生物に対して影響を及ぼす。

物理的及び化学的危険性

- ・ 引火性があり、火気に注意する必要がある。
- ・ ガス抜きをしないまま、高温・高湿条件下に放置したり、火中に投入すると、容器の破裂または爆発のおそれがある。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区别：混合物

成分	C A S R N®	官報公示整理番号 化審法・安衛法	濃度又は濃度範囲 (%)
ツヤ出し剤（パラフィンオイル）	非公開	非公開	非公開
界面活性剤（脂肪酸系（陰イオン））	非公開	非公開	非公開
水	7732-18-5	—	非公開
噴射剤			
L P ガス（プロパン）	74-98-6	2-3	1~10
L P ガス（ブタン）	75-28-5, 106-97-8	2-4	1~10

- 内分泌かく乱作用を有すると疑われる化学物質：環境省「環境ホルモン戦略計画SPEED' 98」（2000年11月版）で示された物質（65種類）を使用しない。

4. 応急措置

吸入した場合

：ミスト、スプレーを吸い込んだときは、直ちに新鮮な空気の風通しのよい場所に移動し、鼻をかんだり、よくうがいをする。何らかの異状を感じたときは、直ちに医師の処置を受ける。

皮膚に付着した場合

：流水でよく洗い流す。衣服や靴などに付いたときは、すみやかに脱ぎ皮膚を流水でよく洗い流す。何らかの異状を感じたときは、直ちに医師の診断を受ける。

眼に入った場合

：直ちに流水で15分以上洗い流す。コンタクトレンズは外す。何らかの異状を感じたときは、直ちに医師の処置を受ける。

飲み込んだ場合

：直ちに水で口の中を洗浄し、コップ1~2杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせようとしない。意識のないときは口から何も与えない。ただし、牛乳アレルギーの人には牛乳を与えない。

その他

：使用中、眼に異状を感じたり、せき込んだり、気分が悪くなったときは、直ちに使用を止めてその場から離れ、洗眼、うがいをする。その後、直ちに医師の処置を受ける。

いずれの場合も、医師への受診時には製品または安全データシートを持参する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：水、泡、粉末、二酸化炭素などの一般消火剤が使用できる。

使ってはならない消火剤：情報なし

火災時の特有の危険有害性

：高温によるエアゾール缶の破裂に注意する。

特有の消火方法：周辺火災の場合はすみやかに安全な場所に移す。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防装置

：消火作業では適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

：適切な保護具（保護眼鏡、保護手袋、保護靴、保護衣、保護マスク等）を着用する。

漏出場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項：雨水溝、河川、海上などに多量に排出されないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

：スクイジーなどを用いてできる限り空容器などに回収する。

回収した跡、または回収できないものは、多量の水で充分に洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い（技術的対策／安全取扱い注意事項／接触回避／衛生対策）

- ・ 作業や製品容器の取扱い時は必ず適切な保護具（保護眼鏡、保護手袋、保護靴、保護衣、保護マスク等）を着用する。
- ・ 用途以外には使用しない。
- ・ 荒れ性の方や長時間作業する場合はゴム手袋を着用する。
- ・ 液が皮膚や眼、口などに付着しないように注意する。
- ・ 他の薬剤、洗浄剤などとは絶対に併用しない。
- ・ 炎に向けて使用したり、火気の付近で使用しないこと。
- ・ 火気を使用しての室内で大量に使用しないこと。
- ・ 食品ならびに人体には使用しない。
- ・ 対象面によっては変色や塗装面の損傷を起こすことがあるので、予め目立たないところで確認の上使用する。
- ・ 使用後は、手をよく洗う。
- ・ 使用後は内容液とガスを完全に噴射し終えてから捨てる。
- ・ 使用後、火の中に入れないこと。

保管（安全な保管条件／安全な容器包装材料）

- ・ 直射日光、40°C以上、多湿及び凍結のおそれのある場所を避けて密閉して保管する。
- ・ 子供の手の届かないところに保管する。
- ・ 車には携行しない。
- ・ 缶が錆びて内容液が漏れたり、破裂するおそれがあるため、水廻りや湿気の多いところには保管しない。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度：設定されていない。

濃度基準値

：設定されていない。

許容濃度：ブタンとして

日本産衛学会（2014年版）：許容濃度 1200 mg/m^3 (500 ppm)
プロパンとして

日本産衛学会（2005年版）：未設定

ACGIH（2005年版）：TLV-TWA 1000 ppm

設備対策：ミスト、蒸気などが滞留しないように局所換気装置または全体換気装置を設置する。

取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸器用保護具	：保護マスク
手の保護具	：保護手袋（ゴム手袋など）
眼、顔面の保護具	：保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	：保護靴（ゴム長靴など）、保護衣

（注）使用方法や使用環境などに応じた適切な保護具を選択してください。

9. 物理的及び化学的性質

（噴射剤を除く内容液）

物理状態	：液体
色	：乳白色
臭い	：特異臭
pH	：9.3（原液、25°C）
密度及び ／又は相対密度	：0.97（20°C）
動粘性率	：データなし
溶解度	：水に分散する
融点／凝固点	：データなし
沸点又は初留点及び	：データなし
沸騰範囲	
引火点	：データなし
可燃性	：データなし
爆発下限界及び爆発 上限界／可燃限界	：データなし

蒸気圧 : データなし
 相対ガス密度 : データなし
 n-オクタノール
 / 水分配係数 : データなし
 分解温度 : データなし
 自然発火点 : データなし
 粒子特性 : データなし

(エアゾール)
 圧力 : 0.35 MPa

(注) 数値はいずれも代表値で表示

10. 安定性及び反応性

反応性 : エアゾール缶は酸性物質との接触により腐食する。
 化学的安定性 : 通常の取扱い条件 (屋内、常温) においては安定である。
 危険有害反応可能性 : データなし
 避けるべき条件 : 酸性物質との接触、火気、熱源の付近、酸性雰囲気下、直射日光、40°C以上、多湿、凍結条件下、開放状態
 混触危険物質 : データなし
 危険有害な分解生成物 : データなし

11. 有害性情報

急性毒性 (経口) : 使用原料の加算式判定の結果より、区分に該当しないとした。
 LD50 > 2000 mg/kg
 急性毒性 (経皮) : データ不足のため分類できない。
 急性毒性 (吸入: ガス) : 区分に該当しない (分類対象外)
 急性毒性 (吸入: 蒸気) : データ不足のため分類できない。
 急性毒性 (吸入: 粉じん・ミスト) : データ不足のため分類できない。
 皮膚腐食性/刺激性 : データ不足のため分類できない。
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : データ不足のため分類できない。
 呼吸器感作性 : データ不足のため分類できない。
 皮膚感作性 : データ不足のため分類できない。
 生殖細胞変異原性 : データ不足のため分類できない。
 発がん性 : データ不足のため分類できない。
 生殖毒性 : データ不足のため分類できない。
 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : データ不足のため分類できない。
 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : データ不足のため分類できない。
 誤えん有害性 : データ不足のため分類できない。

その他 : データなし

12. 環境影響情報

生態毒性 : データなし
 水生環境有害性 短期 (急性) : データ不足のため分類できない。
 水生環境有害性 長期 (慢性) : データ不足のため分類できない。
 残留性・分解性 : データなし
 生体蓄積性 : データなし
 土壤中の移動性 : データなし
 オゾン層への有害性 : データなし
 他の有害情報 : データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報
 残余廃棄物 : 下水道以外の河川等、公共水域への排出は絶対に避ける。

汚染容器、包装	廃棄処理をするときは適切な保護具を着用する。 関連法規ならびに地方自治体の基準に従い適正に処理する。必要に応じて、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従い適正に処理する。必要に応じて、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。
---------	--

14. 輸送上の注意

国連番号	: 1950
品名 (国連輸送名)	: エアゾール
国連分類	: クラス 2. 1 (高圧ガス、引火性、非毒性)
容器等級	: 該当しない
海洋汚染物質	: 該当しない
MARPOL 73/78 附属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	: ばら積み輸送されない製品のため対象外。
HSコード	: 3402. 50
国内法規制がある場合の規制情報	: 次の輸送に関する国内法規に該当するので、定められている輸送方法に従う。 高圧ガス保安法 危険物船舶運送及び貯蔵規則
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 :	<ul style="list-style-type: none"> 輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどがないことを確認する。 荷役作業は丁寧に行い、容器を破損しないように取り扱う。 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 直射日光、40°C以上、多湿、凍結条件下、開放状態での輸送は避ける。 水濡れを避ける。

15. 適用法令

当該法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報	
毒物及び劇物取締法	: 該当しない
化学物質管理促進法 (PRTR法)	: 該当しない
労働安全衛生法／通知対象物質	: 該当する · ブタン (1~10%)
<令和8年4月1日付 追加>	
· プロパン (1~10%)	
労働安全衛生法／表示対象物質	: 該当する · ブタン (1~10%)
<令和8年4月1日付 追加>	
· プロパン (1~10%)	
労働安全衛生法／有機則	: 該当しない
労働安全衛生法／特化則	: 該当しない
労働安全衛生法／がん原性物質	: 該当しない
労働安全衛生法／皮膚等障害化学物質	: 該当しない
消防法	: 該当しない
高圧ガス保安法	: エアゾール製品
危険物船舶運送及び貯蔵規則	: 高圧ガス エアゾール
海洋汚染防止法	: ばら積み輸送されない製品のため対象外。
水質汚濁防止法／水素イオン濃度	: 該当する
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	: 産業廃棄物

16. その他の情報

問い合わせ先	: シーバイエス株式会社 カスタマーテクニカルセンター 電話番号: 045-640-2280 / FAX番号: 045-640-2216
改訂の記録	: 作成: 2008年04月01日 改訂: 2010年04月01日 (社名変更) 2010年12月15日 (JIS Z 7250:2005に書式変更)

2014年07月01日 (社名変更)
2016年04月01日 (記載事項の変更、JIS Z 7253:2012に書式変更)
2016年06月01日 (安衛法改正の為、記載事項の変更)
2022年01月01日 (JIS Z 7252/7253:2019に書式変更)
2024年04月01日 (安衛法改正の為、記載事項の変更)
2025年03月01日 (安衛法改正の為、記載事項の変更)

引用文献 :

- ・ GHS対応ガイドライン、(一財)日本化学工業協会(2019)
- ・ JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学物質等の分類方法、(一財)日本規格協会
- ・ JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)、(一財)日本規格協会
- ・ GHS分類結果データベース、(独)製品評価技術基盤機構HP(NITE)
- ・ GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報、厚生労働省職場のあんぜんサイトHP

※記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データなどに基づいて作成しており、情報の完全さ、正確さ、安全性を保証するものではありません。新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂いたします。全ての化学品には未知の危険・有害性があり得るため、ご使用の際には用途・用法に適した安全対策を実施の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。当安全データシートは、日本国内法規要件に対して作成されたものであり、他の国々における規制上の要件を満たしているわけではありません。

以上